

樹氷復活県民会議に出席しました

令和6年2月5日(月)に、山形県庁講堂で「樹氷復活県民会議」が開催され当署も出席しました。

「樹氷復活県民会議」は、令和5年3月13日に、世界的にも希少で貴重な自然景観であり、山形県の冬のシンボルである蔵王の樹氷を将来世代に継承できるよう、蔵王連峰の特徴的な植生であるオオシラビソ林を再生し、ひいては県民の宝である樹氷の景観を復活させることを目的として設置されたもので、当署はオブザーバーとして参画しています。

【樹氷復活県民会議のホームページアドレス <https://yamagatayama.com/jyuhyo/>】

当日は、会長の吉村県知事、副会長の山形市佐藤市長、上山市山本市長、公益社団法人山形県観光物産協会平井会長、公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構今井理事長も出席して進められ、山形県環境エネルギー部長、山形森林管理署長からそれぞれ取組状況等の報告が行われました。続いて、次世代を担う若者の立場から、蔵王のオオシラビソの再生に取り組む 県立村山産業高校の皆さんから、取組の内容の発表が行われました。

当署からは、

「令和5年度においては、「樹氷復活県民会議」設立を踏まえ、再生に向けた一連の作業を県民会議構成団体の皆様に共有していただくなど、再生活動のすそ野の拡大を図ったところであり、

- ・ 稚樹移植は、樹氷再生への具体的かつ「見える化」された発信力の大きい活動。今後も、これまでの各般の取組が展開される方向であり、新たな移植や播種を行う区画の提供、区画のササの刈払い、着果の豊凶に応じた球果採取を県民会議との連携の下に実施
- ・ 多くの方の参画とアドバイスを得ながら「まずはできること」を継続し、再生に向けた知見を蓄積。移植された稚樹は、山頂付近で生育する貴重な若齢樹。今後の成長経過や周囲のササとの関係を観察・調査・研究するなど、新たな知見を得る場として提供
- ・ 取組のすそ野拡大と知見の蓄積を両輪とする好循環が構築され、樹氷再生への取組が加速化されるとともに、蔵王の山々が森林・環境への理解を深めていただける場となるよう国有林としても努めていく」

旨をご説明しました。今後とも樹氷復活県民会議との連携の下、オオシラビソ林の再生を通じて樹氷再生の取組を進めてまいります。

